

浸水時の対応を 考えよう！

調布市
総合防災安全課

出前講座

～布田小地区における
多摩川洪水および集中豪雨への
対策と課題～

みんなで考えよう！
3月2日（土）
13時半～15時（予定）
こころの健康支援センター
「1階団体室」

主催：布田小地区ハッピータウン協議会
問い合わせ：山本 042-485-4992

一昨年に多摩川の洪水によるハザードマップが改定され、この布田小地域における被害想定が大きく書き換

こころの健康支援センター
一階団体室
13時～

調布市では現在どのような対策と課題を考えているかをお聞きし、またそれをこの地域の皆さんと一緒に考えていきたいと思います。どうぞご参加いただきますようお願い申し上げます。【問合せ：山本 042-485-4992】

布田小地区ハッピータウン協議会
会長 依田 耕児

ハッピーこども食堂 第2回

楽しく食べて いきいき安心 みんなでハッピー！

日時 12月8日（土） 13時～14時半
一階団体室から室に隣って外で食べてください

場所 布田南部自治会館2階（白山宮神社）

対象 子ども（中学生まで）
（小学生・中学生は子どもだけで参加できます）

参加費 子ども100円（お母さん200円）
（お母さんお父さんお兄さんお姉さんお友達も歓迎です）

メニュー シチコー、おにぎり、デザート

※お母さんお父さんお兄さんお姉さんお友達も歓迎です

※申し込み方法は裏面に記載しています

主催：ハッピーこども食堂実行委員会
共催：布田小地区ハッピータウン協議会
協力：布田南部自治会 / 調布市社会福祉協議会
問い合わせ 高橋理子 080-5402-4260

先号（第12号）でも触れましたハッピーこども食堂を10月と12月の二回実施しました。

昨年の6月に当地区協が呼びかけ実行委員会を設置し、地域の有志が集まり計四回にわたり主旨や内容を話し合いました。

そこではさまざまな目的や社会的な課題があが

りましたが、この地域でのこども食堂は、子どもたちに楽しく安心して食事をしてもらうことで、お互いが優しく支え合い温かい地域づくりにつながっていくことを目的とした地域コミュニケーション型で行こう、ということになりました。

既に二回を開催して、ハッピーこども食堂実行委員長の高橋厚子さんは、「新年度も年六回の開催を予定していますが、今後も継続していくためには、お手伝いいただける方の募集や予算的な裏づけも必要です。関心のある方に多く手伝っていただきたい。また寄付や募金なども積極的に呼びかけていきたい。」と話してくれました。

「こころの風景」

これまで二回実施したハッピーこども食堂の様子を見て思った。

子ども同士でお互いに食事に誘って、そして楽しく食べながらいろいろなことを話す。そこからまた相手のこともよく知るきっかけになりさらに楽しい。

これは大人の社会、例えば会社の職場の中やビジネス取引、また各国間の首脳同士でさえもこのような交流が普通に行われている。一緒に食事をするというのはいわば世界共通の人間関係の基本かもしれない。

そんな社会の原点のような光景が目の前で展開されていることに心を動かされた。簡単でも心のこもった食事を提供し、その時々のお友だちやふるさとの思い出を胸いっぱい詰め込んで成長していくってほしいと、関係する一同が共通に思う。

皆さんが愛するこの地域への願いや希望がそこに住む全員の未来への光となるよう、当地区協へのご理解とご協力のほどをよろしくお願い申し上げます。

布田小地区で ハッピーこども食堂を開設 年6回



お手玉で遊ぶ

完成した紙コマ

伝承実行委員会では、その他のむかし遊びを教えらるボランティアの方を募集しています。詳しくはお近くの地区協運営委員までお尋ねください。



木コマを一斉に回す

ケン玉の実演

江原先生は「子どもたちが大変楽しそうでした。地域の有志の皆さんに感謝しています。」また、伝承委員の大家哲郎さんは「木コマのひもの結び方を教えるのが少し難しかったが、子どもたちがすぐ回せるようになるのには驚きました。」とそれぞれ話してくれました。

年末パトロール



桜丘睦会の皆さん



布田南部自治会の皆さん



西友会の皆さん



染友自治会の皆さん

運営委員募集中！

★年6回の運営委員会
★防災教育の日 避難所訓練
★地域の安全安心活動

お近くの上記運営委員にお尋ねください

http://happy-usako.jp
スマホ対応で見やすくなりました

布田小 昔あそび

一月二十五日、布田小学校の三年生総合的学習の時間（第三・四時限）に昔あそびの授業が行われました。

次世代に昔遊びを伝えていくという地域の有志の集まり「昔あそび伝承実行委員会」の皆さんが講師を務めました。

子どもたちは講師の話やお手本に熱心に耳を傾け手を動かし、遊びに集中していました。校長の



布田小昔あそび伝承実行委員の皆さん

ボッチャを体験 調布市スポーツ祭り 於：味の素スタジアム 10/8（祝）

来年開催される東京オリンピックへパラリンピックの種目の一つ「ボッチャ」の体験イベントに参加してきました。

相手との駆け引きなどもあり思っていた以上に熱が入りました。参加した中谷俊一さんは「これを機に健常者も一

緒にチームを組んで交流できるような取り組みになればいいですね。」と話してくれました。

参加した当地区協の3選手（左から依田、中谷、山本）

はっぴーなきずな

高齢化・多忙化のなか、誰でも気軽に引き受けられる町会長を目指して「私にもできました（写せます?）」を模索中です。私個人としては学生時代から障害児教育を志し 50年。現在も修行中です。今後ともよろしく願いいたします。（山本まゆみ）

なかなか深まらない秋の気が続く中、急に冬らしい冷たい空気が訪れた12月8日の土曜日、第二回目のハッピーこども食堂を開催した。10月6日の一回目と同じく白山宮敷地内の布田南部自治会館に、こども食堂実行委員が中心となり、二十人ほどのボランティア・スタッフが朝10時に集合して調理に取りかかった。

この日のメニューはシチュー、おにぎり、それにデザートも。一回目のカレーも好評だったが、今回は米粉と豆乳を使ったチキンクリーム・シチューにして、アレルギーの方でも参加できるメニューを選んだ。このメニューとレシピは、子どもたちに安心して楽しく食事をしてもらえるよう、あらかじめ布田小で配布したこども食堂の案内ビラで案内した。大勢で一緒に食事を楽しむことに



調理中のサポーターさんたち

よって、お互いが優しく支え合う温かな地域づくりにつなげていきたいということが、ハッピーこども食堂実行委員会の目的だ。

この日布田小は登校日だったので一度家に帰って後、12時半を過ぎた頃から小学生が三々五々集まり始めた。入り口で靴を脱ぎ、受付で名前を確認、子ども一人百円（同伴の大人は二百円）の参加費を払って食券を受け取って二階へ。数が少ないうちは少しおらずおずとおとなしかったが、食事の提供が始まる頃にはすっかり打ち解けて、学級や学年を越えた子ども達どうし、一緒に来た大人や幼児、準備

に参加したボランティアさんとも会話がはずむと同時に食事の進み、一時はシチューやおにぎりのお代わりに列ができるほど。校務を終えて参加した布田小の先生方が見えた時には、子どもたちの歓声は頂点に達した。

食事を終えた子どもたちは、そのままおしゃべりを続ける子も、階下に用意してあっただるま落としなどの昔遊びを楽しむ子も、ちよつとした非日常を楽しんでいる様子。帰り際にはお土産をもらって嬉しそうに帰って行った。受付の机の上に置いてあった募金ボックスに、小学生の女の子が十円玉を何枚か入れながら「楽しいし、またやって欲しいから」と言ってくれたのは、実行委員もボランティアも疲れがいつべんにに吹き飛ぶ一言だった。

六年生を頭に一歳まで四人のお子さんと一緒に参加された長岡由子さんは、「子どもが



これからいよいよ配膳！



第1回のメニューは、カレーライス、ポテトサラダ、みかんゼリー

多いので、近いところに子ども会のようなものを探していたところでした。大家族が一度に集まって食事やゲームをしているようで、楽しいし食事もおいしかったです。」と話してくれました。六年生と五年生の二人の男の子と参加されたベネゼエラ出身のアントニオ・ウイヤスミルさんも、「学校で子どもがもらってきたビラを見て、二回とも参加しました。友達とワイワイ騒ぎながら食事ができるのがとても良いです。ちょうど二カ月前に調布に引っ越してきたところだったので、近所の人たちが歓迎の食事をしてくれたみたいで嬉しい。」とのことでした。

調理スタッフとして参加して下さった大野信也さんは、「このような世代を越えた地域の活動は素晴らしい、今後は男性も家に引きこもらずに参加されると良いと思う。」同じくスタッフとして参加頂いた



当日お手伝いいただいた調理サポーターのみなさん



楽しそうにわきあいあいと食べる子どもたち



調布駅のロータリーから南へ真直ぐ、品川通りを越すと急に道幅は細くなるが、調布南高校の横で桜堤通りに入るまでの道には、保健所通りという名前が付いている。保健所なんてあったっけ？実は平成16年つまり十五年前の3月、それまでの狛江調布保健所が他の二カ所の保健所と多摩府中保健所に統合した歴史があるのだ。元保健所の施設を改修して2007年に調布市が開設したのが、今回の訪問先のこころの健康支援センター。

副センター長で当地区協の運営委員も務めている大沼静子さんと、臨床心理士の和泉怜実さんにお話を伺った。お二人を含め、センター職

員28名は調布市社会福祉協議会（社協）に所属して、社会福祉士や精神保健福祉士などの資格を所持している方がほとんど。それはこのセンターが「こころの病、精神障がい、発達障がいのある方の自立と社会参加を支援する」という目的で作られたからだ。

平成18年に障害者自立支援法（現在の名称は障害者総合支援法）が行われ、保健所跡地に調布市が開設し、運営を社協に委託した。その結果、こころの健康支援センターは総合的なサービスを提供できる施設として、他の市区町村には見られないユニークなセンターとなった。

センターの主な事業は、こころの相談、社会参加を支援する自立訓練とデイ事業、障害者就労支援事業、発達障害者支援事業。ぼぼむの四つだ。こころの相談は文字通り、市内在住でこころの病や発達障がいのある方および家族などに開かれた相談窓口で、毎月30件前後の新規相談を受けているとのこと。自立訓練事業は、十人程度の固定メンバーでのグルー

こころの健康支援センター訪問

なんでも
気軽に相談してみよう

ブワークや、パソコン教室・調理など自立に役立つ訓練プログラムその他を通して、社会参加への力と自信をつけてもらうことが目的だ。デイ事業は自立訓練事業を補完する目的で市が独自に設けた利用期限のない通い場所、仲間との交流や生活リズムの改善に役立ててもらおう。いっば、いっば、すすむ、という思いから「ぼぼむ」と名付けられた発達障害者の支援事業も、障害者就労支援事業も市内在住の支援を必要とされる方を対象としている。

布田小地区に住む私たちは、センターとどんなお付き合いすれば良いのでしょうか？とお聞きしてみた。「昨年も10月に開催した『布田わくわくひろばまつり・調布市こころの健康支援センター地域のつどい』には、約八百人の地域の方に来場していただきました。地域の世代間交流と顔の見える関係づくりを目指すわくわくひろばと、市内の福祉作業所や団体の活動を地域の方々知ってもらおう地域のつどいを同時開催することによって、多くの人達が交流や活動できる場になりました。毎年開催しているので、ぜひ



まず受付でたずねてください



取材に応じる大沼さん（右）、和泉さん（中央）、（左が筆者）



こころの健康支援センター

<http://kokoro.chofu-city.jp/>

（取材・文 藤田秀雄）